

宗教者実務経験証明書

本宗教教団所属の宗教者である_____は、_____年以上
の宗教者としての実務経験があることを証明します。詳細は、添付資料のとおり
です。

年 月 日

所属教団

所属寺社教会等

職名

住所・電話番号

〒

証明者氏名（ふりがな）

印

以下のページは印刷しないでください

- ・「宗教者実務経験証明書」の本紙は、A 4 用紙 1 枚に収まるように印刷してください。
- ・冒頭の空欄（下線部）には、申請者氏名と年数を記載してください。
- ・記載内容はワープロ印字でも構いませんが、押印（証明者）は必須です。
- ・「宗教者実務経験証明書」の本紙とともに、**①宗教者としての経歴と活動概要**、**②よくある相談内容の例**（400～800 文字）、**③特に印象に残っている相談内容とそれに対する自身の対応**（二～三事例を記す。一事例あたり 400～800 文字、合計 1600 文字以内）、の三点についてワープロ印字で A 4 用紙 4 枚程度にまとめたものを添付してください。
- ・**①宗教者としての経歴と活動概要**では、臨床宗教師の教育プログラムの受講時期についても記載してください。
- ・**②よくある相談内容の例**、**③特に印象に残っている相談内容とそれに対する自身の対応**については、個人情報保護に留意して記載してください。
- ・**③特に印象に残っている相談内容とそれに対する自身の対応**については、臨床宗教師の教育プログラムでの学びを活かした相談内容について、できるだけ具体的に書いてください。

（添付書類の記載内容の例）

①宗教者としての経歴と活動概要

1990 年 3 月 15 日 ○○寺（A 県 S 市）にて得度、僧名は「□□」。

1990 年 4 月～1991 年 3 月 △△寺（K 県 K 市）にて修行

1991 年 4 月～1994 年 9 月 ☆☆大学に通いながら、○○寺徒弟として土日祝日のみ寺務見習い（法要の準備、法要の助員、月忌参りなどでは檀家からの法事の相談を受ける）

1994 年 10 月～2005 年 6 月 株式会社▼▼社の社員として勤務しながら、○○寺副住職として土日祝日のみ寺務（葬儀の助員、住職に代行して葬儀の執行、葬儀前の遺族との打ち合わせ、法事の相談など）

2005 年 7 月～2015 年 10 月 住職継承により○○寺副住職として専従で寺務（葬儀の助員、住職に代行して葬儀の執行、葬儀前の遺族との打ち合わせ、法事の相談、法事の準備・執行、月忌参り、檀家など地元の方々からの相談対応、地元の高齢者施設での法話会、地元の宗門僧侶青年会での布教活動、檀家旅行の随行、本山での研修会参加、教区での布教活動など）

20011年7月～現在 ■■寺（A県S市）の住職を代務し、週に1回程度の寺務（葬儀の執行、葬儀前の遺族との打ち合わせ、法事の相談、法事の準備・執行、月忌参り、檀家旅行の随行など）

2015年11月～現在 ○○寺住職として専従で寺務（葬儀の執行、葬儀前の遺族との打ち合わせ、法事の相談、法事の準備・執行、月忌参り、○○寺後継者の育成指導、檀家など地元の方々からの相談対応、地元の高齢者施設での法話会、地元の宗門僧侶青年会での布教活動、檀家旅行の随行、本山での研修会参加、教区での布教活動など）

2020年4月～2021年3月 ☆☆大学主催の臨床宗教師養成講座を受講

2020年8月 ○○宗A県第二教区広報委員長に就任

②よくある相談内容の例

○○寺において最も多い相談は、法事に関することです。一周忌については、大半の方が実施を希望されますが、その後、三回忌以降になると、実施するかどうか、するならばどのような規模（参加者、会場）か、などです。お布施の金額などを直接的に尋ねられることもあります。お墓についても相談は、自坊の墓地から他地域に移すことや、いわゆる墓じまいの相談が増えています。合葬墓の問い合わせについて檀家以外から電話がかかってくることがあります。年に数回ですが熱心な檀家からは、月忌参りの時などに、教義について尋ねられることがあります。数は多くないですが、檀家以外の地元の方から、死生観に関する質問を受けることがあります。

それ以外には、月に1回あるかないかですが、③で記すように自死、カルト問題、自身や家族の病気のこと、介護問題など、人生に関わる相談事をお聞きすることがあります。このような相談事にどう対応するか知りたくて、□□講座で学ぶきっかけになりました。

③特に印象に残っている相談内容とそれに対する自身の対応

① 数年前のことですが、檀家以外の方から電話で、「死にたい」という訴えがありました。○○寺では特に電話相談を受け付けているわけではないので、戸惑いました。以前の私であれば、教えの中で何か伝えられることはないか、そして何か伝えなくてはならないと焦ったと思いますが、□□講座で学んだように、まずは傾聴しようと思い、どのような事情があるのかお尋ねしました。20分ほど仕事うまくいかないことや人間関係で何度も嫌な目にあっていることなどについて、お話しいただきました。私はドキドキしながら聞き始め、そして話が進んでいくと、私自身も苦しさ、悲しさ、怒りも感じるようになりましいた。少し

落ち着いてきたようなので、最後に「苦しいことがたくさんありますが、頑張っ
て生きてください。困ったことがあったらまた電話してください。」と伝えまし
た。その後、同じ方からの電話はありませんが、どうなったのか気になっており、
また自分の対応がどうだったのか疑問で、近いうちにフォローアップ研修があ
るので、会話記録検討会で発表し、ご指導いただきたいと思っています。

② 2ヶ月ほど前に檀家さんのご家族から「娘が××教に入った」という相談を
受けました。以前より離れて暮らしているので、気付かなかったようですが、帰
省したときに、娘さんからその教団の本を読むように勧められて、初めてそのこ
とを知り、目の前が真っ暗になったとのこと。有名なカルト教団なので、私も心
配になりましたが、どうやって対応したものか何ともアイデアがなく、助言のし
ようもなかったのですが、せめて落ち着いて今後の対応を考えてもらおうと思
い、30分ほどお話しをお聞きしました。娘さんの仕事や結婚や今後の生活環境、
自分を含め他の家族に経済的な問題が生じないかなど、心配が尽きないようで、
聞いている私も心が重くなりました。その場では具体的な対応について正確な
情報がなかったなので、自坊にもどってから蔵書を読み直し、ネット検索をするな
どして、家族としての対応や、カルト対策をしている団体の連絡先を調べて、お
伝えし、私もできるかぎり協力すると伝えました。